



久留米市における 流域治水推進の取組み



令和7年2月5日
福岡県久留米市



流域治水推進PT事務局

1. 流域治水の取り組みについて

(流域治水推進プロジェクト)

- 久留米市の近年の降雨状況
- 度重なる浸水被害への対応(流域治水推進プロジェクトの設置)
- 流域治水の主な取り組み

◆平成30年7月の被害状況(下弓削川付近・合川地区)

03



◆久留米市の近年の降雨状況

- ・平成30年以降、**6年間で6回**の大規模な豪雨被害が発生
- ・**6年間で4回**の大雨特別警報

時期	1時間 最大雨量 (mm)	3時間 最大雨量 (mm)	6時間 最大雨量 (mm)	24時間 最大雨量 (mm)	48時間 最大雨量 (mm)	72時間 最大雨量 (mm)	総雨量 (mm)
平成30年 7月	40.5		156.0	279.5 観測史上 1位(当時)	383.5 観測史上 1位(当時)		386.0 (7/5~8) 特別警報
令和元年 7月	90.0 観測史上 1位(当時)	177.5 観測史上 1位	275.0 観測史上 1位	335.5 観測史上 1位(当時)	402.5 観測史上 1位(当時)		474.5 (7/18~23)
令和元年 8月	60.5	147.0	187.5	330	366.5		408.0 (8/26~29) 特別警報
令和2年 7月	48.0	105.5	169.5	360.5 観測史上 1位(当時)	483.0 観測史上 1位(当時)	529.0	772.0 (7/5~11)
令和3年 8月	72.0		193.5	387.0 観測史上 1位	572.5 観測史上 1位	718.5 観測史上 1位	896.5 (8/11~19) 特別警報
令和5年 7月 『耳納山』	91.5 観測史上 1位(※)	167.0 観測史上 1位(※)	316.0 観測史上 1位(※)	402.5 観測史上 1位(※)	452.0 ※耳納山観測所の記録	565.5	567 (7/7~10) 特別警報

★流域治水推進プロジェクト設置

令和4年2月

- ✓ 度重なる**浸水被害の克服**が市の最重要課題
- ✓ 「**流域治水推進プロジェクト**」を設置（令和4年2月発足）
- ✓ 全庁挙げて、**浸水・減災対策を推進**

1.目的 ✓浸水対策、減災対策に係る関係組織や部局間での**情報の共有、事業協力体制の構築**や**組織横断的な事業の推進**

2.役割 ✓浸水対策、減災対策の**新たな施策の検討**
✓実施中の施策の更なる推進及び**進捗管理、施策間の連携**
✓施策の**見える化の推進**

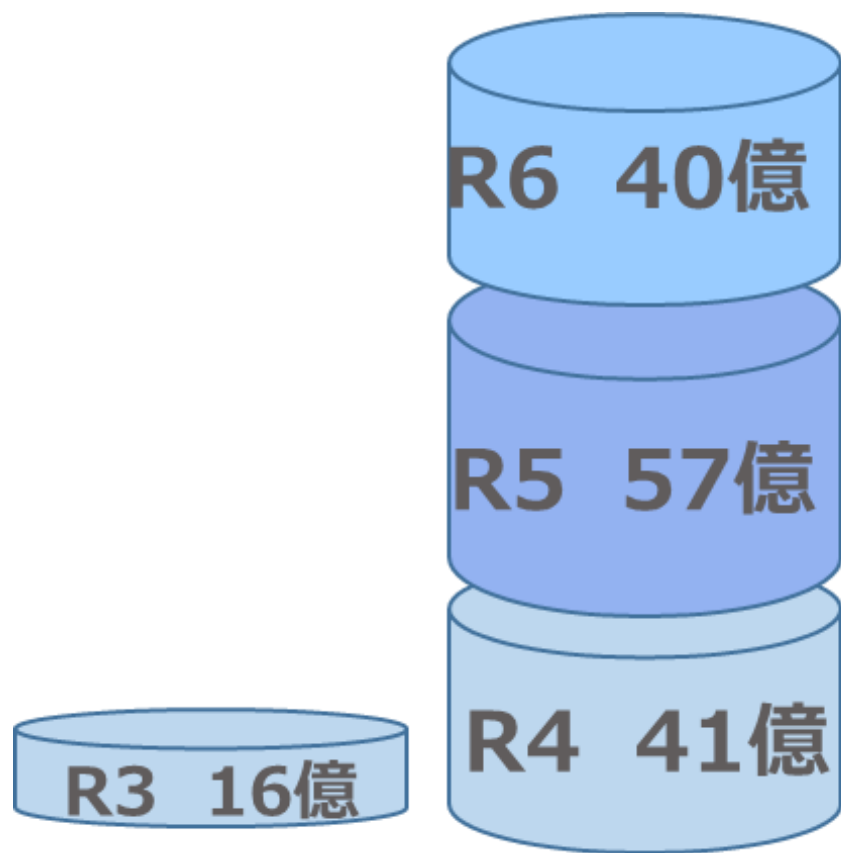
3.メンバー 【総括】副市長
【令和6年度】
✓リーダー：都市建設部長
✓サブリーダー：防災担当部長
✓メンバー：関係部局の次長等

【関係部局】
都市建設部・農政部・協働推進部・教育部・総合支所など

予算を重点配分

流域治水関連予算

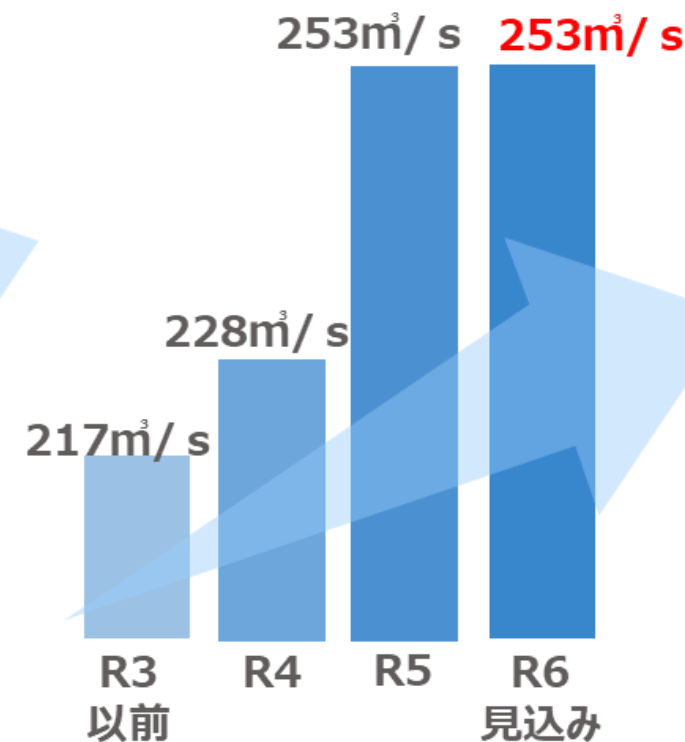
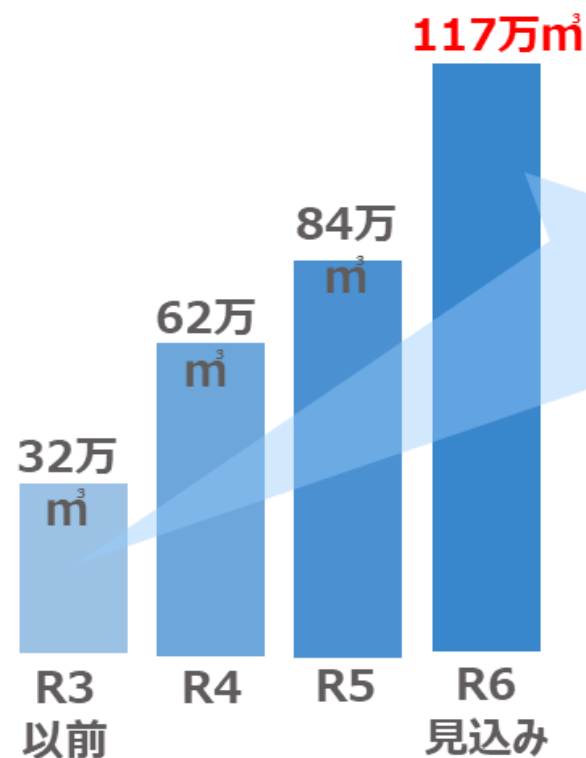
3力年で**約140億円**



治水施設機能が大幅増加

貯留機能が**約3.7倍**

排水機能が**約1.2倍**



<ワーキンググループ (WG) >

流域治水推進 プロジェクト

(1) 貯留施設検討WG

オブザーバー
河川課長、農村森林整備課長

- ✓ 公共施設等を活用した雨水流出抑制対策や雨水貯留施設の検討
オンサイト、オフサイト貯留、雨水貯留タンク（公共施設）
- ✓ 農業施設（ため池・クリーク）を活用した貯留機能の向上
ため池の低水位管理、クリークの先行排水

(2) 協働による浸水・減災対策検討WG

オブザーバー
公園土木管理事務所長、
商工政策課長

- ✓ 企業、行政、市民との協働による減災活動の実施
みんなで流域治水、田んぼダム
- ✓ 止水板や貯留タンクなどの補助制度の拡充

(3) 浸水・減災対策の見える化検討WG

オブザーバー
広報戦略課長

- ✓ 浸水・減災対策に関する周知方法の検討
広報紙、市長記者会見、工事看板、のぼり旗、学校授業

(4) 特定都市河川検討WG (R5.9月に新設)

オブザーバー
河川課長

- ✓ 特定都市河川指定の検討、雨水貯留浸透施設
整備補助の支援拡充検討

◆久留米市流域治水推進の取組み

08

備える



○避難所の見直しを実施

○備蓄品の確保(食料や携帯トイレなどの拡充)

○災害から身を守るため、啓発動画(土砂災害編・内水氾濫編)を作成

協働

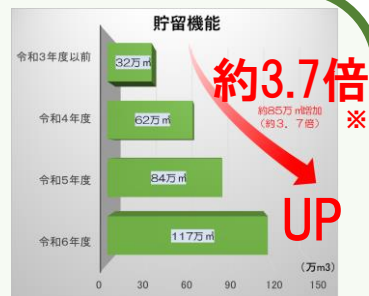
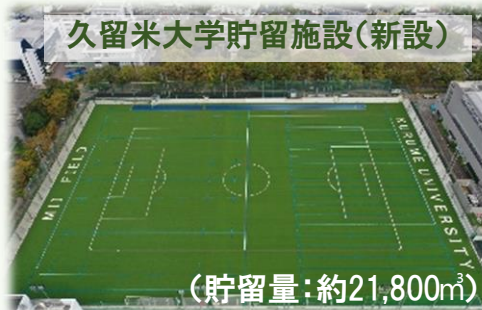
○啓発動画による避難の呼びかけ



校区や自治会に向け説明会や意見交換、研修会を実施

溜める

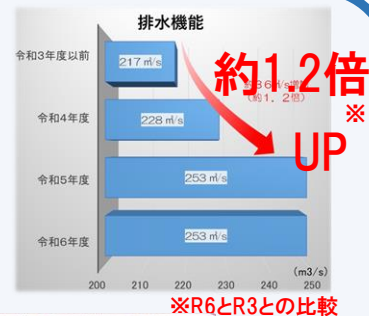
○貯留施設の整備



※R6とR3との比較

流す

○国・県・市が連携



※R6とR3との比較



金丸川・池町川総合内水対策事業 関連

○みんなで流域治水！



企業、地域住民、学校との協働により取り組み、防災意識の高揚を図る

令和4年から順次拡大

令和6年 14箇所
総参加人数 約1,100名

○田んぼダム



○雨水貯留タンク



民有地設置へ補助

令和6年度
田んぼダム 約269ha
クリーク先行排水

オフサイト貯留施設

▶ これまでの取組

下弓削川・江川総合内水対策計画の主要施設が完成



久留米大学雨水貯留施設
(R 5 年 9 月完成 21,800 m^3)



御幣島公園雨水貯留施設
(R 6 年 3 月完成 4,800 m^3)

▶ 令和 6 年度

オフサイト貯留施設調査・設計

貯水堀貯留 (県事業)

県営事業負担金

城島地区 (2カ所 貯留量 約 16万 m^3)



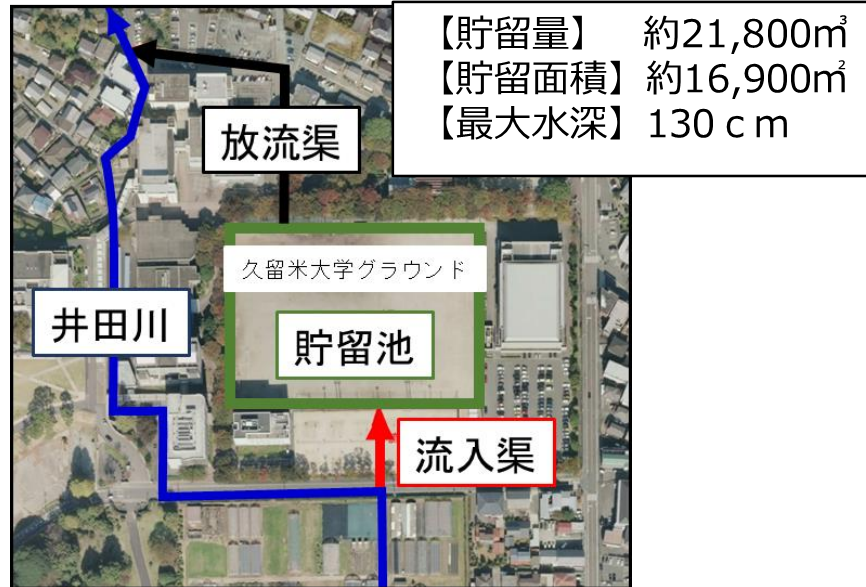
オフサイト貯留整備イメージ



江上本貯水堀

◆久留米大学グラウンド貯留施設

久留米大学との連携で被害を軽減



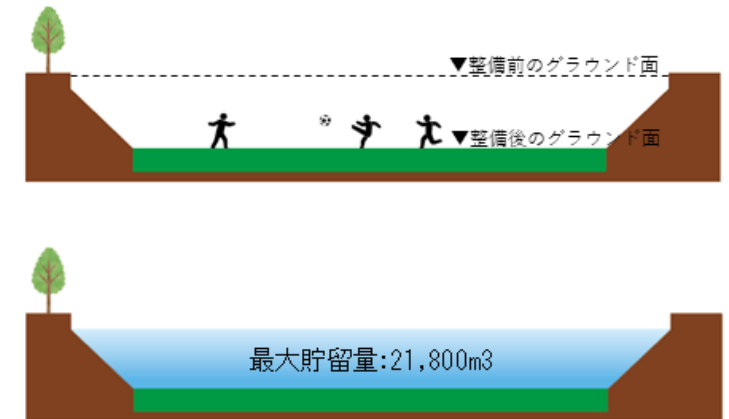
貯留イメージ

平常時

平常時はグラウンドとして使用します。

貯留時

流入した雨水をグラウンド内に貯留します。貯留量は25mプールの約50杯分です。



運用状況 R6年7月1日 貯留量：約5,000m³/21,800m³



オンサイト貯留施設

学校や公園を活用した雨水貯留施設の整備

▶ これまでの取組

- ・北野中学校グラウンド (2,000m³)
- ・北川原公園 (600m³)
- ・城島総合文化センター駐車場 (400m³)



北野中学校グラウンドの貯留状況 (R5. 7)

▶ 令和6年度

- ・田主丸中学校 (田主丸 3,600m³)
- ・善導寺公園 (善導寺 1,000m³)
- ・御幣島公園 (合川 160m³)

令和6年出水期
完成



田主丸中学校

◆北野中学校オンサイト貯留施設（事業の整備効果）

■整備概要

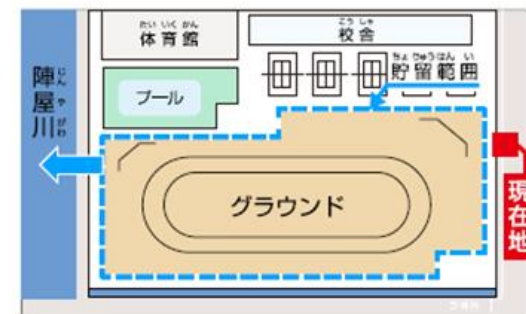
- 【貯留量】 約2,000m³
- 【貯留面積】 約12000m²
- 【最大水深】 30 c m



完成写真

北野中学校
オンサイト貯留施設

きたのちゅうがっこう 北野中学校グラウンド雨水貯留施設

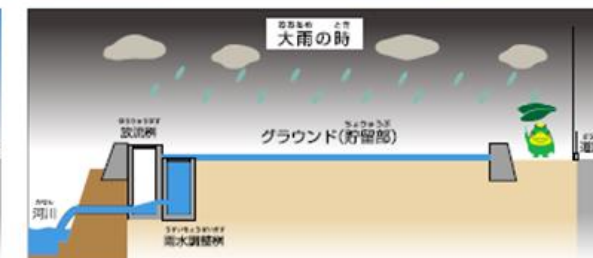
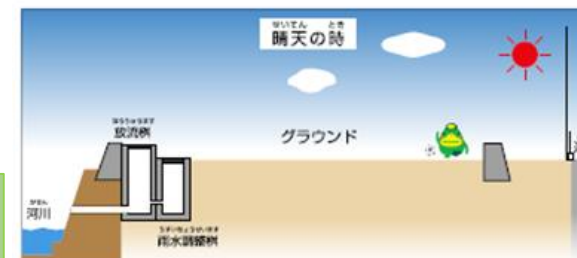


このグラウンドは大雨の時に敷地内に降った雨を一時的に溜めて、陣屋川へ少しずつ流すことで、浸水被害を減らす役割をします。

施設概要	
貯留量	約2,000m ³
貯留面積	約12,000m ²
最大水深	30cm



大雨の時は
水がたまるので
気をつけるっば！



■事業効果

【貯留実績】

- 最大貯留量 約1,270m³
- 最大水深 23 c m



陣屋川流域への雨水流出を軽減



(R 5.7.10 10時30分頃)



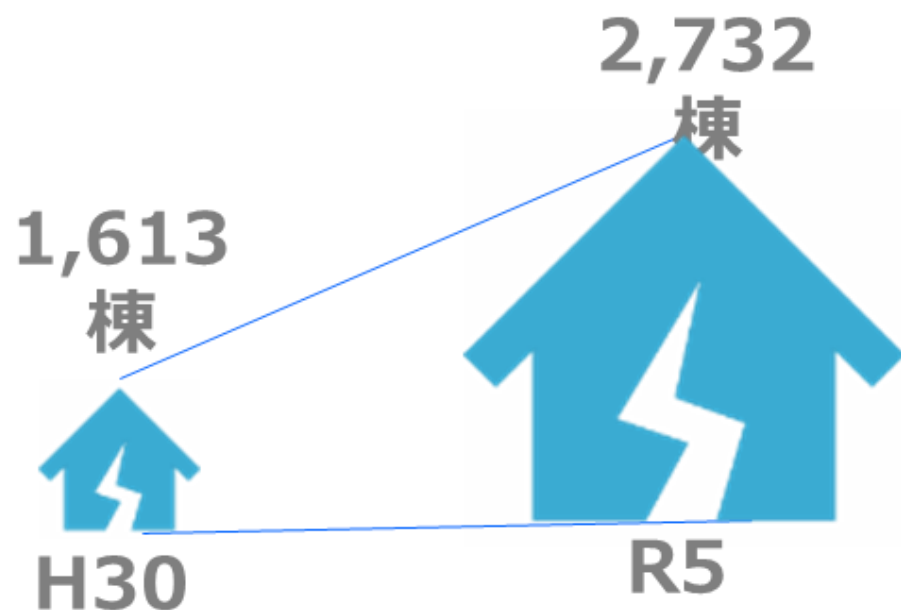
貯留状況

▶令和5年7月の大雨被害状況

■住家の浸水被害状況

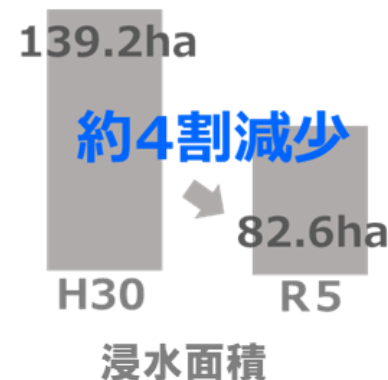
市全体の住家の被害戸数

→平成30年比**1.7**倍

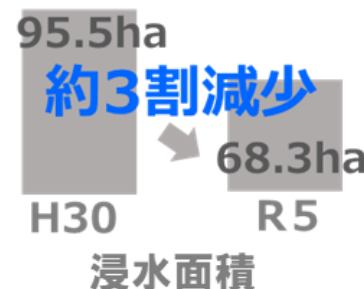


■総合内水対策計画で取り組んだ地域の効果例

下弓削川
流域



金丸川
流域



※被害戸数は床上浸水戸数と床下浸水戸数の合計

※床上浸水戸数と非住家の浸水戸数の合計